

# エイジフレンドリーシティ 行動計画ワークショップ

テーマ2 エイジフレンドリー 普及啓発情報発信

かわら版

第5回

日時:平成24年12月4日(火) 午後6時30分～午後8時  
会場:アルヴェ 3階 市民交流サロン  
進行:NPO法人あきたNPOコアセンター  
主催:秋田市

## 当日の流れ

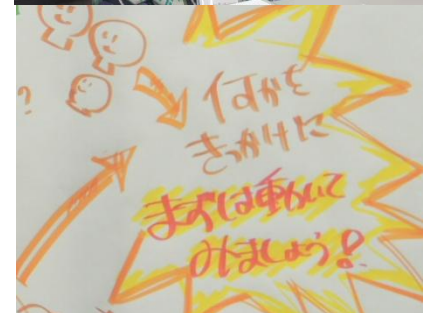
- 6:30～ 開会  
4回目のふりかえり
- 6:40～ 報告  
「策定委員会参加の報告」
- 6:50～ 意見交換  
「実施可能な事業案に  
ついての検討」  
「運営する組織について」
- 8:00 終了



## 具体的な一歩を踏み出してみよう

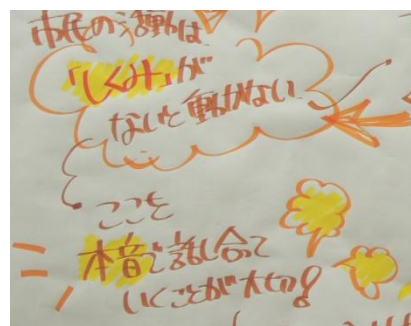
来年の2月24日(日)にアルヴェで開催予定の長寿福祉課のフォーラムに合わせ、このワークショップ部会でも何か関わりをもてないかとの提案がありました。広く一般の人に「エイジフレンドリーシティ」について知ってもらう機会としてふさわしいことや、このワークショップの話しあいから踏み出す一歩になるのではないのでしょうか。

具体的な案として、「エイジフレンドリー」というものを文章で説明するのではなく、クイズや写真など視覚的にわかりやすく伝える展示を行うという企画案が出されました。



## 組織のありかたをどうする？

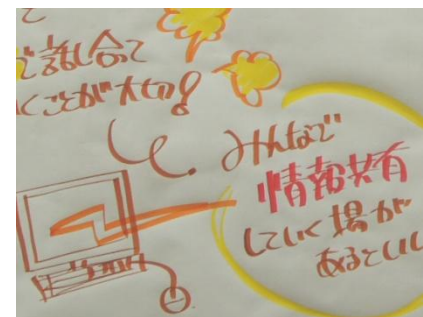
ワークショップで出た事業案を行うにあたり、「イベント実施委員会」と「エイジフレンドリー認定委員会」という2つの組織に分かれて動くことを確認しました。また、ワークショップ終了後の組織については、続けたい気持ちを無理なくつなげたいという意向から、基本的には現メンバーが継続するものの出入りは自由という間口をつくること、組織だけで完結するのではなく、メンバーひとりひとりのネットワークを活かしていくこと等の意見が出ました。また予算の面でも、行政の予算が無くなったらおしまいというのではなく、寄付や協賛など市民で動けるかたちがあるのではとの意見も出ました。



## 活動を動かしていくために

市民活動は、貢献心のある人に負担がかかりすぎて疲弊しがちな面があります。そのためにもしっかりした「しくみ」が必要。そのしくみをどうしていくか、関わる人が本音で話しあっていくことが大切です。本音で話しあうには、同じテーブルに乗って意見交換できるための情報共有が必要。このワークショップも情報共有の場ですが、SNSを活用するのもひとつのやり方ではないか、まずはこのメンバーでフェイスブックの勉強会をしてみないか、という意見がありました。

ワークショップもいよいよ、次回年明けが最終回です！  
皆さま、新年にまた元気にお会いいたしましょう♪



## 策定委員会参加の報告

11月29日(木)に開催された「エイジフレンドリーシティ行動計画策定委員会」に、第2部会の代表として出席した時田さんより会議の報告がありました。時田さんの所感としては、今すぐに取りかかれそうな事業について、第1分会と一緒にまずは動いてみたらどうだろうか、大町・通町を散策して「これってエイジフレンドリーだね！」というポイントを発見する「まちあるき」も良いのではという提案がありました。

また、事業の成果をはかる上で数値目標の設定が必要なこと。そのためには私たち市民が行政の仕組みを知る必要がある、などのお話がありました。

